

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔精肉〕 （店長）	・能登半島地震以降、客の買物控えが続いているが、数か月後にはかなり回復する。
		コンビニ（経営者）	・2、3か月後に近隣で小学校の新築工事が始まるため、売上が増加する。
		乗用車販売店（経理担当）	・6月にミドルクラスの新型車が発売されるため、販売量の拡大が期待できる。
		その他専門店〔医薬品〕 （営業担当）	・地元の有力企業では夏のボーナスの増額支給が予想されるため、周辺店舗の売上増加が期待できる。
		高級レストラン（スタッフ）	・能登半島地震から約2か月が経過し、ようやく県関係の予約が若干入り出した。ただし、風評被害はしばらく続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・大型の宴会予約があり、売上は前年以上に増加する見込みである。
		タクシー運転手	・5月の売上は前年実績を維持できたことに加え、今後、タクシー運賃の値上げによる売上増加が見込まれる。
通信会社（営業担当）	・携帯電話の新機種発売と新キャンペーンの開始に伴い、販売量の増加が見込める。		
変わらない	変わらない	百貨店（売場主任）	・消費者の所得に上昇傾向が見られず、原油価格も下がらないため、消費全体の落ち込みが懸念される。
		百貨店（営業担当）	・夏に向けてのギフト需要の増加見込みが立たない。また、自家用の商品は良い物は売れるが、量的には期待できない。
		スーパー（店長）	・6、7月のボーナスは微増といわれており、住民税の増額に加え、ガソリン価格の更なる値上げが食料品の支出にマイナス要素となる。
		スーパー（営業担当）	・原油の高騰と、バイオ燃料増産の影響を受けた一部食品の値上がり懸念材料である。
		コンビニ（経営者）	・客から家計の負担増の話がよく聞かれ、当店の主要客層である成人男性への影響が懸念される。大型キャンペーンもなく、今後は厳しくなる。
		観光型旅館（経営者）	・重油の値上がりや地震の風評被害などマイナス材料が多く、心配である。
		観光型旅館（スタッフ）	・6月以降についても前年の予約保有数を下回っており、能登半島地震の風評被害が続いている。
		旅行代理店（従業員）	・地震や天候異常などから、旅行者にとって4～8月は様子見となる。当面、景気の良くなる兆しは見られない。
		旅行代理店（従業員）	・先行きの予約状況から判断すると、現状とあまり変わらない。
		通信会社（役員）	・ケーブルテレビのデジタル契約の新規獲得において、低迷する現状を改善する大きな要因が見当たらない。
		テーマパーク（職員）	・能登半島地震の風評被害、7月の参議院議員選挙などの影響から急激な回復は望めず、現状が続く。
		その他レジャー施設 （職員）	・今後も景気は変わらず、依然として来客数、客単価、販売数などが横ばいか下降気味で推移する。
住宅販売会社（従業員）	・今年の夏商戦は目新しい材料がなく、苦戦が予想される。		
やや悪くなる	やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕 （営業担当）	・工場や新社屋の建設が少ない上に、IT関連商品の価格が厳しい。
		百貨店（営業担当）	・旅行、健康、グルメなどでは、相変わらず良い物を求める消費者の購買態度が見られる。主婦の動きとして趣味などにはお金を掛けるが、日常的な買物では財布のひもが若干固くなりつつある。
		百貨店（営業担当）	・バーゲンや良い品物を安くするなどの企画がないと、集客ができず、厳しい状態が続く。
		スーパー（総務担当）	・ガソリン価格高騰などの影響を受け、必需品においても節約志向が見られ、これが客単価の低下につながるおそれがある。
		コンビニ（経営者）	・競合店がオープンした影響に加え、近くの現場工事が終了したため関係者の来店が無くなり、厳しい売上が続く。
		自動車備品販売店（従業員）	・ボーナス商戦で一時的に盛り返すと思われるが、中期的には悪化傾向で推移する。
一般レストラン（スタッフ）	・今夏は猛暑の予報で期待が持てるが、年金問題を始めた政治に対する不信、住民税の値上げなどから、消費マインドは落ち込む傾向にある。		

		スナック（経営者）	・製造業関係の客から「業況は徐々に下降気味」とか「社内を引き締めている」などの会話を耳にする。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストランの企画商品の販売が5月で終了し、引き続き来客数の増加に期待しているが、一般宴会は7月の予約が低調なため、全体では前年を下回る見通しである。
		タクシー運転手	・2、3か月後にはタクシーの運賃が改定される予定である。過去の例では改定後のタクシー利用が減少しており、今でも少ない客のタクシー離れが懸念される。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者数が横ばいにもかかわらず、商談は減少気味である。
	悪くなる	百貨店（売場担当）	・客は安さだけでは買わないという厳しい状況が更に進む。
		スーパー（店長）	・昨年、大手のスーパーが数店オープンしたが、今年8月にはまた近くで大手の複合施設が出店する。地方のスーパーにとって、取り巻く環境が更に悪化する。
		住関連専門店（店長）	・4、5月の売上は前年比10%前後の落ち込みとなり、回復の気配は感じられない。下見などに来る客も少なく、今後も不安である。また、競合店の出店の影響も受けている。
企業動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経理担当）	・秋口までは現状が続き、若干上向きの期待が持てる。ただし、それ以降は予断を許さない。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・婦人衣料は二極化しており、ファッション傾向のある素材は好調であるが、ボリューム商品は悪い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・長引く円安傾向により、輸出販売価格の影響などに不透明な部分があるが、大きな変化は生じない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・当社では当面、現状とほぼ同程度の受注が予想される。眼鏡の地場産地では今年施行された、より厳しい新原産国表示ルールの影響が、プラスに作用する企業とマイナスに出る企業とに分かれる。
		建設業（経営者）	・新年度の公共工事の発注が始まって、発注量は前年より削減され、その分競争が激しくなる。受注できても採算は厳しくなる。
		通信業（営業担当）	・通信業界では次世代ネットワークとして「NGN」構想が出ており、発展途上にある。現状ではIP化への動きとともに電話機等の更改が上昇傾向となっているが、連休明けからその更改の動きが若干鈍ってきている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・数か月間は前年比プラスの月とマイナスの月が交互になっており、当面は横ばい傾向で推移する。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・業界自体は原材料や包装資材を始めとしてすべてが値上がり傾向にあるなかで、製品の価格帯がまだデフレ時のままで推移していることから、収益力が極端に落ちてきている。
		繊維工業（経営者）	・6月までの産地の受注は数量的に充足していたが、7月以降は失速が懸念される。また、ナフサの高騰もあって原料高が予想され、産地に悪影響が生じる。
		輸送業（配車担当）	・燃料費等の更なる高騰により収益が圧迫され、今後ますます厳しくなる。
		司法書士	・土木関連業者については、暖冬の影響に加え、談合による多数の業者の指名停止の影響が懸念される。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・官公庁工事の減少の影響が民間工事に波及し始めており、受注価格競争のエスカレートに資材価格のコストアップが加わり、ますます情勢は悪くなる。
	雇用 関連	良くなる	-
やや良くなる		求人情報誌製作会社（編集者）	・市内中心地に大手百貨店がリニューアルするため、新規採用の動きが見込める。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・高い技術力の需要に対し、人材不足で応じ切れない。
		人材派遣会社（社員）	・各企業に人材確保の厳しさが徐々に浸透しており、これまで派遣料金の値上げに消極的だった企業からも耳を傾けてくれる機会が多くなってきた。ただし、好調な業種に偏っている。
		職業安定所（職員）	・求職者の就職率に大きな変化がない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加しているものの、非正規型求人が常用で5割近くを占めており、雇用形態のミスマッチは改善されない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・技術職の求人はあるが、一般の求人数に大きな変化は見られない。
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	